

Young Entrepreneurs Group of
The Fukui Chamber of Commerce and Industry

YEG FUKUI



vol. **90**

発行日/平成11年3月31日発行
発行所/福井商工会議所青年部
福井市西木田2-8-1
TEL: 0776-36-8111
FAX: 0776-36-8588

福居

発行者/田中 義乃
編集者/山岸 寛士

福井商工会議所 青年部会報



CONTENTS

- 話題の人 2
「美化木」の日産産業
- 経済人インタビュー 4
ピア管理様代表取締役社長 酒井行雄氏
- 歴代会長に訊く 10
三谷宏治氏 三谷政敏氏
森下龍男氏 井上 彪氏
- 県連会員大会 8

福井発信型企業 独自技術の「美化木」で躍進!!

最近、テレビコマーシャルで、“腐らない木”という商品をご覧になったことがあると思います。今回はその腐らない木「美化木（びかもく）」生みの親、日広産業株式会社社長の浦杉広春氏にお話を伺いました。

■ まず、社長と、「美化木」の出会いはどういったことでしょうか。

「美化木」に限らず、木材に樹脂や薬剤を浸透させる技術は、かなり前からありました。私が大学生のときに、ロシアの文献で、木材にキシレンを注入し放射線で固めるという技術を見つけ、研究したのが樹脂含浸木のちの「美化木」との出会いです。

これをきっかけとして木材業界に就職（永大産業）に入社し、木材改良事業に参加いたしました。その時代に出来た商品がいまのW・P・C（Wood Plastics Combination）です。

その後、永大産業の倒産を機に、日広産業社を創立しW・P・Cを改良し「美化木」（Cristal Color Wood）が誕生しました。

■ どの様に拡販されてきましたか。

当初は、この材料を利用して最初にできた商品が、ループ・タイにつける木製のアクセサリでした。これをボタン屋さんに持ち込んだところ、仕上がりの綺麗さからアクセサリ店を紹介され、注文にこぎつきました。その当時は、「美化木」の技術はあっても、気の利いたデザインをする事も出来ず、数種類のアクセサリを店に置いてもらい、売れ行きのよい商品を量産するという状態でした。（笑）

それで、ようやくメシが食えるようになり、ペンダ



美化木を熟っぽく語る浦杉社長

ントやアクセサリが北陸のブティックなど130店程に扱ってもらえるようになり、海外に輸出もしました。そのころには展示即売をかねる北陸一のイベント屋になっておりました。勿論ダイヤや、その他の貴金属も扱っておりましたので、月にダイヤの3つも売れば十分生活が出来たほどでした。そしてアクセサリでの収益を「美化木」の研究につぎ込むという状況でした。



美化木の数々



昭和57年には福井市主催の「第1回ふるさと観光物産コンクール」で「美化木」のペンダントが市長賞を獲得、翌年には、漆塗り蒔絵包丁が会議所会頭賞を受賞して、現在では、福井県指定郷土工芸品として、色々な工芸品の素材に使われております。

■ 今後考えておられる新商品は。

試してみたい事は山ほどあります。たとえば、「美化木」に樹脂と一緒に放射線（ラジウム）などを同時に注入させ、その材料を使って浴槽を作れば、普通のお湯を入れるだけで温泉効果が生まれるわけです。他にも、不燃樹脂を注入して、不燃の「美化木」を作る。竹を使って「美化木」を作るなど、言いだしたらキリがない程あるのですが、研究には資金が必要なので、なかなか思うようにいきません。公園のベンチや吊り橋などに使われる場合、原材料の購入から制作納品し、工期を終えて集金にいたるまで4、5ヵ月かかります。この期間資金を確保するのは本当に大変で、仕事は毎

年倍々で増えているのですが、今年も2、3月は倒産の危機でしたよ。（笑）

■ 今、ご苦労されていることは。

「美化木」には、樹脂含浸透改良材として、同等品が有りません。これは一見とても良いことのように思われますが、関係省庁などにPRしても、採用してもらえないので、それだけで採用を見合われる場合が多々あります。商品として、一般化されていないことの弊害だと思っております。数年後、他社から同等品が出るのが待ち遠しいですね（笑）。

また、先程も言いましたが、とにかく資金が不足していることです。様々な融資制度や金融機関でも、商品や技術力では保証にならず、私のような県外からの転入組には、資金計画は大変厳しいものです。私は京都生まれの大阪育ちで、今でも家は残っておりますが、県外の不動産では担保にはならないし、県外の保証人も認められません。中小企業や、ベンチャー企業を支援するシステムはまだまだ整備するべきだと思います。

私は、60歳で、引退する事を考えておりますので、それまでにこの会社を、福井発信型企業、オンリーワン企業に育てて後継者に技術を継承していきたいですね。

* * * * *

■ インタビューを終えて…

社長というよりは技術者、技術者というよりは職人という匂いのする浦杉社長でした。「美化木」をこよなく愛し、その技術を絶やさないよう継承していくことに、使命感をもって臨んでおられる姿は、とても60歳で引退するようには見受けられませんでした。60歳と言わず、いつまでも現役で研究に情熱を燃やしてほしいと思いました。

<プロフィール>

浦杉 広春（うらすぎ・ひろはる）
1942年（昭和17年）8月27日生まれ 54歳
大阪府出身 近畿大学卒
大学卒業後、永大産業（本社大阪市）に入社し、入社翌年の1965年（昭和41年）から同社中央研究所で、木材特に合板の改良研究に携わる。
1978年（昭和53年）
永大産業本社が倒産したのを機に、同年10月に福井市文京で日広産業社を設立して独立。
1983年（昭和58年）1月
坂井郡春江町針原に本社工場を建設。
1991年（平成3年）6月
法人化して日広産業株式会社を設立。
1996年（平成8年）6月
坂井郡春江町千歩寺に樹脂含浸加工工場（西春江工場）建設。
現在に至る。

SC(ショッピング・センター)は独自色で生き残りの道へ

ピア管理(株) 代表取締役社長 酒井 行雄 氏に訊く

■まず初めに、イトーヨーカドーを発端にした消費税還元セールで、各店がエスカレートした割引合戦を展開したことについて、どのようにお考えでしたか。

最初、ピアでは実施する予定がなかったのですが、ジャスコからの要請があり、急ぎよ実施しました。その結果、ジャスコ側では、昨年比135%、組合側が120%の売り上げを上げることができました。1割引、2割引が珍しくない中で、どうして消費税5%還元で消費者が動いたのか、今でも理解に苦しむところがありますが、おそらく消費税に対する消費者の反抗心がそうさせたのでしょう。ただ、一時的には効果があったものの、そのあと反動で売り上げが落ち込んだわけで、結果的には需要の先取りに過ぎなかった、といえるのではないのでしょうか。消費拡大に仕掛けが必要な事はわかりませんが、消費不況は予想以上に深刻であります。

■地域振興券についての効果はいかがですか。

効果は期待できないだろう、という分析をしていましたが、効果があったのは、玩具や子供服等を中心とした子供用の必需品に集中しております。他の業種では、現金が地域振興券に変わっただけ、という結果でした。福井市でいうと、自動車・燃料を除く全小売業の年間売り上げ3,200億円に対して、地域振興券の発行額は13億円、わずか0.4%に過ぎないこととなります。その0.4%のためにこのセールを実施したことで、逆に日頃現金で買い物をしているお客様から、「なぜわずかの人が優遇されるのか。」という不満の声が上がることもありました。何れにしてもまだ3割弱位しか使用されておられませんので、消費を喚起するという振興券の効果は、今のところ計りかねます。ただ、待ちでなく取りにゆくという意気込み(販促)が必要かとも思います。

■景気の状態は現在が底という見方もありますが、今後のショッピングセンターの売り上げ動向をどのように予想されますか。

景気が落ち着いてきた感はありますが、回復に向かうのはおそらく来年度だと思います。また、先行きへの安心感がまだ全く見えていません。企業の倒産・リストラ・年金の問題・銀行への公的資金導入による体質改善のための更なる融資選別強化など様々な不安がとり除かれない限り、景気の上向きは期待できないと思います。そんな中で、福井県の人口は、年々減少傾向にあり、福井市などは2025年までに約2万3千人減るといふ予想があります。しかも消費は増えないにもかかわらず、県内SC(ショッピングセンター)の数は年々増えてきており、平成6年には154店舗しかなかった大型店が、平成9年には204店舗に激増し、小

商圏化しております。

しかも、今後さらに開発方面にニトリや100満ポルトが、また大和田には大型ショッピングモールが進出を予定しており、大型店1店舗当たりの坪売り上げは減る一方になるでしょう。現在でも福井県の人口10万人当たりの大型店舗数は24.5店になり、その密度はなんと全国1位なんです。また、ジャスコやダイエー、マイカルなども新店舗の候補地を探しており、まだまだ増える可能性があるでしょう。全国的にも昨年末時点で2,550店舗の大型SCは、毎月100~150店舗増え、2010年にはおそらく4,000店舗を越えるだろうと予想されています。そんな中で当然、老朽化したSC、採算の取れないSCは自然淘汰されていくでしょう。生き残っていくためには、それぞれが独自色を出して対応策を考えていかないと先行き非常に難しいと思います。

■青年部では、一方で駅前活性化について取り組んでいるのですが……。

県都の顔として福井駅前の活性化は、私共も非常に関心をもっております。ただ従来のように行政だけにたよってはいけません。先ず商店街としての自助努力が先決であり、その上で行政との一体化を図ることが必要だと思います。又駅前を利用する大半が若い人々であり、その意味で青年部が中心となって活性化を図ることも、より大事だと思います。

今後だるまや西武がロフトをオープンし、紀伊国屋書店などをテナントで入れることは、駅前活性化のプラス要因になるのではないのでしょうか。

■青年部を含めたこれからの経済人に何か一言アドバイスを……。

元福井銀行頭取の市橋督氏から、昔いろいろと勉強させてもらったのですが、その時の教えである、①絶対に自分の能力以上に背伸びをしてはいけない。②他人を当てにするな。③中身で勝負しなさい。という3つを私の格言としております。この3つを守っていれば、どんな時代にも対応できると思います。

■最後に、ピアのリニューアル計画についてお伺したいのですが……。

現在、組合としては、だいたいの輪郭ができており、あとはジャスコ側の出方を待っている段階です。いずれにしても大法が改正になる再来年の1月までにはすべてを決定するつもりです。以前、移転の話もありましたが、私はこの場所でピアの長い歴史と商圏の良さを活かしていきたいと考えています。また、食料品部門を2階から1階に移すことも考えています。駐車場の出入り口をもっと便利にしたいですね。もちろん、店舗内容についても生き残りのために斬新な見直しが必要だと思っています。

(文責：メディア委員会)

和歌の心を知ってビジネスに生かそう

俵万智の短歌を中心に



「5・7・5・7・7、ただそれだけ」

学生時代の俵万智は、佐々木幸綱教授のこの一言によって近代短歌史にその名を残すこととなった。

2月2日、浅井悦子大聖寺高校教諭をお招きして、メディア委員会研修「和歌の心を知ってビジネスに生かそう!」が催された。

青年部から田中会長以下16名が参加、男女間の深淵をのぞき見るような発言があり、活気あふれる講義となった。

万葉集の時代より現代まで、人の心は普遍であり、男と女との熱い思いもまたしかり。「生きとし生けるもの、いづれか歌を詠まざりけり」平安時代の紀貫之はいった。「生きることがうたうこと。うたうことが生きること……。」現代の俵万智はいった。

短歌の31文字は、一番短い自分への手紙であり、新しい自分の発見であり、ラブレターであり、メッセージであり、なによりも生活に即した感動である。

歌詠みは常にメモを取り、日常と背中合わせの非日常を、何気なく生きている脇にある裂け目を見つめている。すべてがテーマであり、素材である。



これこそ商売に通ずるものではないだろうか。

人々の生活とかけ離れた商売や、人の心に根づかない商品は成立しないであろう。

ビジネスチャンスはそこかしこに眠っている。それを見つけたし、生かそうとしていないのは私たち自身の責任である。

俵万智の短歌集はヒット商品だ、詠みやすく、わかりやすい。簡単に歌われたように思いがちであるが、心からあふれ出てきたものに、推敲を重ねたものであるという。

私たちも、知恵を振り絞り、考え抜き、厳しい状況に立ち向かっていかなければならない。明日からといわず、たった今から始めようではないか。

慶松 裕司



12月例会 1998 YEG3大ニュース! いけてる? いけてない? (H10. 12月16日)

平成10年12月16日(水) 商工会議所ビル国際ホールにて、10年度定期総会が開催されました。11年度役員案、組織案、委員会職務分掌案、基本方針案が提案され、すべて可決されました。

ひきつづき12月例会が、「1998 YEG3大ニュース! いけてる? いけてない?」というテーマで開かれました。

内容は、次年度の活動を魅力あるものとするために、委員会ごとに10年4月から12月現在までの活動をふりかえり、自慢できるニュース、自慢できない事、およ



び番外等3つに絞ったニュースを発表し総括するというものでした。

各委員会グループ討議では、様々な視点からの意見が集約され、発表では、ユニークな内容に会場で爆笑であふれる場面もありました。



1月例会 コンセンサスゲーム コンセンサスでは混乱せず (H11. 1月27日)

1月例会に予定していた「会頭と語る会」は、市橋保福井商工会議所会頭が、折からのインフルエンザによるのか体調を崩され、急遽延期(後に中止)となってしまいました。しかし、例会経営研修委員会K委員長は、既に次の手を用意していました。(さすが!)

コンセンサスゲーム「若い女性と水夫」であります。このゲームはストーリーを読み、5人の登場人物を、嫌いな順に順位をつけていくというものです。これをグループに分かれて、コンセンサスによりグループの結論を決定するというものです。

なぜ、このゲームは「嫌い」な順なのでしょう。以前からこのゲームをやりがっていたK委員長によると、「熱中してくるとつかみ合いのケンカになることもあるんや。オモッシャーザ〜。」とのこと。(ナンナンやる、この人)

「嫌い」という否定的意見でコンセンサスを得ようとするには、時として相手を否定することになり、意見の衝突は必然となります。では、いかに感情的にならずに意見を一致させるか、それは各人の理論の組み立て方によると思われます。ロジカルで、理性を要するゲームではないでしょうか。——「水夫と寝た若い女性は短絡的だ。」「いや、人の弱みにつけ込んだ水夫はえげつない。」「フィアンセの親友と女性は実はできていた。」「ウソーッ!?!」(どこがロジカルやーっ!)と、まあ午後のワイドショー的な明るい雰囲気の中、どのグループも活発な討論を繰り広げました。K委員長の期待いや、心配したつかみ合いのケンカ(混乱)もなく、今回の例会も無事終了しました。

鬼も登場! 大新年会&節分パーティ (H11. 1月31日)

今年度の「冬のレクリエーション」は、例年行われているクリスマスパーティとはちょっと目先を変えて、去る1月31日(日)「節分パーティ」と銘打って、福井厚生年金会館で開催されました。会員並びに家族の多数の参加申し込みがありましたが、当時、世間ではインフルエンザが猛威をふるっている最中で、案ずるが如く、その影響で残念にも参加辞退者が相ついでにありました。それでも、19家族、65名の参加で盛大に開催されました。

当日はまず、例会において好評だった「聞香」を、奥様が受講されている間、お父さんと子供たちは別室で竹トンボ、弓矢の手作り教室に。会場はローソクの火と子供たちの熱気でムンムン。廊下は飛びかう弓矢でさながら戦国絵巻と化し、会場内は元気印の子供たちで一杯でした。



その後、恒例の家族パーティでは、景品やお菓子を標的にした弓矢大会や、豪華賞品が出された大ビンゴ大会が歓声もにぎやかに行われました。

また、現・旧会長が扮する「赤鬼・青鬼」が子供たちの豆まきの「洗礼」を受けたあと、ご両人の珍ダンスもお披露目されました。

たくさんの笑顔と多くの親睦がはかれ、楽しい一日の冬のレクリエーションでした。

会員交流委員会 M



団結力の尊さと醍醐味を呼び戻せた 県商青連全員大会を主管開催

平成11年2月11日、知事をはじめ来賓の方々を迎え、15回となる福井県商工会議所青年部連合会会員大会が当青年部の主管にて行われました。思えば、昨年の夏を過ぎたあたりからたびたび協議を重ね、大会当日は多くの会員の方々にご協力頂きました。私、個人としては青年部へ入会してから最も疲れた1日であり、最も青年部を実感した1日であったことは間違いありません。

今回の会員大会は“新しい種を蒔こう！YEG新世紀に…”をテーマに、パターン化してきた会員大会を福井の手で変えては…いや…変えよう、ということで、知恵を絞って企画しました。とおりの一辺倒になりがちな式典についても工夫して、懇親会については、みなさんご存じ

のとおり非常に盛り上がりがありました。大会記念誌についても、会報としての雰囲気も十分にでていたのではないのでしょうか。大会の目玉であるフィールドワークも雨の中で大変だったでしょうが思い出に残ったのではないのでしょうか。(皆さんどういふ行動をとられたのか非常に興味があります。機会がありましたら是非お聞かせ下さい)

次年度の会員大会は勝山で行われるとのこと。今回、福井が行った会員大会がこれからどんな方向に進んでいくのか。また、数年後に福井で行われるときにはどうなっているのか。新しい種は育っていくのか。青年部での楽しみが又1つ増えました。

大会終了後、当青年部の大御所が私に次のようなことを言われました。「福井YEGにとって、久しぶりの大会主管。忘れかけていたチームワークで事に当たる団結力の尊さと醍醐味を呼び戻せ、新しいメンバーはこれを実感したのではないか。」

最後になりましたが、今回の会員大会にご協力頂いた方、参加された方、そして様々な場面で支えていただいた皆さん、大変お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

総務委員会 副委員長 藤澤 克美

■式典

式典のオープニングは、女性声楽家による、アカペラの歌とピアノ伴奏による「tomorrow」の熱唱を聞きながら、サビの盛り上がりからは、清川委員長操るパソコンからプロジェクターを通して、花や空・水など自然の映像をスクリーンに映すという演出でした。私はこの演出が歌声とマッチして感動的で、すごく印象に残りました。会員のみなさんはどうでしたか。

続いて、坪田パレススクールの子供さんたちによって、かわいい踊りを披露してもらいました。“新しい種”子供にモチーフをおき、青虫からきれいな蝶へと成長していく姿を表現したものでした。

リハーサルでは、踊るスペースが狭く、踊る子供たちがステージにぶつかるといったハプニングや、パソコンからの映像がうまくスクリーンに出ないというトラブルがありましたが、本番ではパッチリと決まり、式典は無事終了しました。

清水 史博

■フィールドワーク

今回のテーマ「種を探そう！あなたは街の創造者だ！」の思いを描いて、参加者は15チームに分かれて各地区へ。リーダーを先頭に指示書にもとずいてGO！移動手段は、歩き・タクシー（殆どのチームは歩き）

まず寒い日だったのでコーヒーを飲みながら名刺交換、そしてエリア内の街を歩く。そこで設定問題の答えを議論し、商店組合理事長と世間話。(延々20分ぐらい話し尽きない)

問題をクリアしたところで時間となり、懇親会場へ。あつという間の分科会で、8人のメンバーとは街の思いまた各会員のビジネスの会話など結構できて、アルコールも入り、交流は十分出来たと思う。

佐々木 清史

■懇親会

大会のフィナーレを飾る懇親会は“バックドラフト”の曲とともに幕を開けました。

今までの既成の形にとらわれず、一つ一つを手作りで、しかも、宴を作っていくのは参加者全員であって、他単会会員をもてなすという観念からの脱却が、我々の提案でした。

手作りといえば、宴席全てを会員の田中裕務君が賄ってくれましたし、コーナー食としては、青年部とのネットワーク連携という点から、菓子組合・地元酒造組合・バーテンダー協会の方々色が添えて下さいました。

次に、全員参加といえば、会員の田谷仁一君を筆頭に、各会員が存分に持ち味のパフォーマンスを発揮してくれ、コンパニオンまで巻き込んだ全会員による大盛況のアトラクションとなりました。

また、微に入り細に亘ってこだわった音響と照明、宴会の生ものの姿にあえぎながら奮闘した司会進行と、これら全てに我々のコミットメントが痛いほど感じられました。

閉会では、『新しい種蒔き』から『確かな芽吹き』への成長を祈念して、♪人生、楽ありゃ苦もあるさあ〜〜〜で見通り、参加者各位の今後に想いを馳せながら幕を引きました。

三村 貞二

第22回 市民の広場フォーラム開催 「新しい駅前広場をどうするの？」

(H11.3月13日)

3月13日(土) 福井駅ビル3Fホールにおきまして第22回市民の広場フォーラムを開催いたしました。我々は過去3回この市民の広場フォーラムで、福井駅周辺の新しい顔づくりについて市民の方々と語り合ってきたわけですが、今回は「新しい駅前広場をどうするの？」と題して、これまでの経緯を踏まえつつ、新しく生まれてくる駅前広場の利用者の立場から見た空間構成について話し合いました。

今回のテーマ選定についてはいくつかの背景となるものがありました。まず、最近の駅周辺区画整理事業や中心市街地活性化事業が具体的に動き出しているため、現実にもった内容にしたかったことがあります。

次に、我々と同様にまちづくり活動を展開している団体・機関が数多くあり、個々の力を結集することで実り多き成果を確立しようとする、ネットワーク化の道の模索です。そして、駅の東西に計画される広場は、交通アクセス機能については触れられているものの、利用者への集い・語り・もてなしといった機能が不十分であり、市民の意識の持ち方次第でこれから変え

ていくことは可能なため、少しでも多くの市民の皆様に関心を持っていただく必要性からです。

開催内容といたしましては、まず現状の認識と一言で福井商工会議所の商工振興課長から説明を頂きました。次にパネルディスカッションでは3名のパネラーの方々にそれぞれの立場から現状の問題点を指摘して頂きました。その後、各地ですでに建設された連続立体交差や駅前広場の様子をスライドで見ただき、参考としてもらいました。

グループディスカッションでは8つのテーブルにわかれてそれぞれのリーダーを中心に活発な意見交換がされました。

これからもこのような活動を通して一人でも多くの市民の皆さんに、「福井の顔づくり」について関心を持ってもらえたらと思います。

まちづくり推進室長

三村 貞二



あじさい会会員交流会

「21世紀の企業経営」「青年部に思うこと」三谷 宏治氏 卓話

三谷商事(株)代表取締役会長

3月5日に行われたあじさい会会員交流会では、三谷商事(株)代表取締役会長の三谷宏治氏をお迎えし、卓話を拝聴するという機会に恵まれました。三谷氏は、福井県屈指の企業グループの代表で、福井YEG並びにあじさい会の初代会長を務められた方で、会員の関心も高く50名近くの出席が得ました。卓話は「21世紀の企業経営」と「青年部に望むこと」というテーマで約1時間、昨今の経済環境の変化をもとにこれからの企業のあるべき姿をいろいろなデータや事例を交えて語って頂き、参加者は熱心に聴講していました。その概略を以下にまとめます。

日本経済を取りまく環境は、グローバル化するなかアメリカ化の進展により大競争の時代に入っている。競争激化に加え、連結決算、キャッシュフロー重視など会計制度の転換も進んでいく。また国内では少子高齢化に伴い保険料・消費税の上昇など、企業が負うべき負担の上昇も免れないであろう。このような国内外の厳しい環境変化に対応できない企業は淘汰され、勝

ち組負け組がはっきりとした、二極化が進んでいくであろう。このような環境変化を踏まえ、企業人として心得ておかなければならないのが、次の3点である。「特色ある企業づくり」「創造力ある企業づくり」、そして「消費者本位の企業づくり」だ。変化に敏感に対応し、このように発想を転換しなければならない。それができるのは大企業よりむしろ中小企業である。青年部に望むこととしては、21世紀の地域経済の担い手として、ますます活発に活動することを期待する。

以上が概略要旨です。紙面の都合上残念ながら大部分を割愛させて頂きましたが、将来を見据え、的確に環境変化に対応しつつ、しかもしっかりと危機管理をしていく、という商人としてのあるべき姿をお示し頂き大変参考になりました。三谷氏には卓話後の懇親会にも最後までご歓談頂き、お忙しい中本当にありがとうございました。

高原 裕一

歴代会長に訊く!!

福井商工会議所青年部は、平成11年度で創立してから25年目になり、今日の青年部があるのは諸先輩方の汗と涙のご努力の賜だと思えます。今回は、歴代会長の方々にインタビューを申し込みまして、当時の思い出や今後の青年部への提言、励ましのお言葉などを頂きました。

初代 三谷 宏治 氏 S49~50年度



福井商工会議所青年部は、地域の活性化を図るため始めた。

今の福井は、他地域の人との交流、流動が少なく、通りすぎの地点でしかない。

高齢化が進み、あと1~2年すれば介護保険法などにより“シルバー産業”が盛んになるだろう。



今後、地域活性化に向けて、柔軟な発想の青年部のアイデアが大切になってくる。

(大鎌 記)

第3代 三谷 政敏 氏 S53年度



■ 当時の青年部について聞かせて下さい。

3代目の会長として、当時も県都福井市の活性化をテーマとして取り組み、全国の先進地であった青森県八戸市のまちおこしを訪ねたりした。街づくりに関心を持ちはじめた頃で、市民の広場フォーラムを開催し、市民100人に質問をし電光掲示板で結果をその場で発表した。22年たった現在も、同じ問題を討議していることに福井の街づくりの遅れを感じる。市民に街づくりの関心をもたせたのは商工会議所青年部であろう、今後も青年部が前面に出てこの問題に取り組んでほしい。

■ 先輩として一言お願いします。

現在日本は戦後最悪の不況だが、青年経営者にいえることは、一人で悩まず何でもフランクに話せる信頼できる仲間をつくることだ、情報を積極的に出し交換しながら力をつけていくといい、いい仲間を増やすことが大切だ。

(松本 記)



第4代 森下 龍男 氏 S54年度



ールへの海外視察研修旅行があります。20数名が参加して、当地のガラス工場や、日本から進出している瀬戸物工場などを見学しました。



シンガポールは、観光と産業がミックスされたすばらしい都市ですので、視察の収穫はもちろん、それ以上に会員の交流、団結に役立ったものと思います。

■ 当時の青年部について聞かせて下さい。

今の青年部の皆さんは、全国的に活発に活動されていて、いつも感心しております。

当時、福井に青年部ができたのは、全国的にも早い時期でしたので、我々会員だけでなく、商工会議所の職員の方々ともども手探りで運営していました。

思い出としては、私が会長の時企画した、シンガポ

■ 先輩として一言お願いします。

人生の中で一番アクティブに動けるのが、40歳代だと思います。その時期に様々な業種の人と出来るだけ多く語り合い、悩みを打ち明け合って、切磋琢磨し、そのエネルギーを新たなチャレンジにぶつけていって欲しいと思います。

(田中 記)

第5代 井上 彪 氏 S55年度



のコミュニケーションの場である。同業者、異業者いろんな人がある中で直接的な勉強というのではないかもしれないが、間接的にいろんな事を勉強し、またそれがお互いの刺激となって「アイツがやるのなら俺も」と互いに刺激し合いながらそれが、さらに自分を大きくできる。

何かテーマを持って、それに向かって切磋琢磨しながら皆んなで取り組んで行くことが大事でしょう。人との交流も大事だが、中でも、街の活性化に力を入れて欲しい。街の活性化=人の活性化であり、そのためにぜひ青年部にいる若い人たちががんばってほしい。



* * * * *

最後に井上氏は、「今後の青年部活動も苦痛にならない程度に気軽に勉強、人脈、街づくりとがんばって下さい。必ず自分のためにプラスになります。」と現青年部にエールを送って頂きました。

貴重な時間を頂き本当にありがとうございました。

(宮本武 記)

■ 当時の青年部について聞かせて下さい。

その頃の青年部は出席率が極端に悪く崩壊寸前で、「これではいかん!」ということで、規約を見なおし組織も改め、お金を使わず派閥などを作らずもっと気軽に参加できる楽しい会にしようと、いろんな改革を進めていた頃だった。ちょうど今の青年部の原型を作りつつあった。

■ 先輩として我々に一言。

青年部というのは基本的に勉強の場であり人と人と

どこか懐かしい国マレーシア 都会的で洗練された街シンガポール



日本から飛行機で7時間半、車窓から眼下を見下ろすと、そこは一面ゴムと油ヤシの木で緑一色だった。そして空港に下り立った我々は真夏の国に立っていた。

空港から約1時間バスに揺られ、首都クアラルンプール市街へ。すると景色は大自然から一転、大都会へと変わった。高さ450m、80階建てのペトロナスツインタワーとKLタワーがまず目をひく。そして街のいたるところにはイスラム教のモスクがあり、異国情緒を漂わせている。



国民の6割がマレー系、3割が中国系、残り1割がインド系と原住民で構成されているこの国は、まさに人種のつぼといった様相。イスラム教徒の女性は頭にスカーフを巻いて顔を隠しており、1日4回のお祈りを欠かさないという。国民の平均年収は日本円で100万円前後、家賃4,000円の国営アパート、2kの広さに夫婦子供2人というのがごく平均的な家庭ということ。最近、郊外の建て売り住宅が増えており、購入価格は900万円ぐらい。公務員はローンなどあらゆる面で優遇されているため、就職希望者が非常に多いようだ。街を走る車はプロトンという、日本の三菱自動車と地元企業の合弁によるメーカーの車がほとんど。また、オートバイに乗る人も非常に多く、こちらはホンダ車の人気が高い。

交通量も日本の都会並に多く、朝8時から9時までのラッシュアワーにはひどい渋滞になるということ。車など乗り物だけでなく、日本企業の進出はこの国でもめざましく、街には日本語の看板がいたるところが目立っていた。

夜になり、街に出た我々は、点在する24時間営業のマレー料理屋台に入ってみることにした。カレーをベースにした数々の料理を腹一杯食べたが、それでも一人当たり300円足らずという安さに感激。

翌日は、街を離れ、マラッカを観光、夜は蛍の生息地で有名なマングローブの林の中へ手漕ぎの舟で川下りを楽しむ。川の両側のマングローブには無数の螢が光を放ち、まるでクリスマスツリーのようにキラキラ輝いており、夢のようにロマンチックな光景だった。

短い時間だったが、この国の街並みやそこに住む人

達をみて最も強く感じたことは、決して裕福とはいえないが、これから発展していこうとする強いエネルギーと明るい活気に満ち溢れているということだ。それは、ちょうど我々が幼かった頃、もう30年以上前の日本にあったような雰囲気にどこか似ている。そのせいか、初めて来た国なのにどこか懐かしく、今や我々が失ってしまったものが、ここにはあるような気がした。

福岡 靖

●カクテル・シンガポールスリング

マレーシアからシンガポールへ入ると、都会的で、洗練された街という印象がした。聞いていたとおり、きれいな街でゴミの収集も毎日あり、虫もいないと地元のガイドさんも自慢していた。確かにこの暑さで、川の畔で食事をしているところで、ライトアップの明かりのところを見ても、あのおぞましい虫の大群どころか、一匹もいない。(本当です) 刑罰で管理する事にイロイロ考えることはあるかもしれないが、人間やる気になればやれるもんだと思った。

我々はおみやげ店巡りは飽きたので、世界的にも有名なカクテル、シンガポールスリングを飲んでみよう。とラッフルズホテルのロングバー(店名)へいった。その前にラッフルズホテル(ここも、日本でいう帝国ホテルである)に着くと、その玄関先で記念写真を撮っている若い日本人の女性達を見た。「あー」と嘆きとも軽蔑ともいえる声を出してしまったが、この際だからと我々も彼女たちと同じように、記念写真を撮った。(ちょっと恥ずかしかった)

ロングバーに入ると、やはりほとんどの人が「シンガポールスリング」を飲んでいて。うつくしいピンク色、シンガポールスリングのロゴ入り専用グラス、天井では団扇がはためいて、とてもおしやれな雰囲気である。

一口飲んでみると、飲みやすいフレッシュジュースのようで、とてもおいしかった。今までよく飲んでいたものとは、まるで別物であった。なんでも本物を体験してみるべきだとつくづく思った。これから片町などでシンガポールスリングを飲むと、かならずこのことを思い出すことでしょう。

今回も、語り切れないいろんな体験、感動、出会いがあり、ちょっと普段と違う時間をすごせ、うれしくなります。「百聞は一見にしかず」皆さんもどうぞマレーシア、シンガポールへ。 真木 康至

誰にも聞けないパソコン用語 (その4) “知らないの〜”と言われたいために。

パーソナルコンピュータを利用する場合、ハードウェアが何かというよりも OS(オペレーティングシステム)を何にするかというのが重要なポイントになります。

現在のパソコン用の OS としてはアップル社の iMac がブームとなっているマッキントッシュ用の MacOS(マックオーエスと呼びます)と、マイクロソフト社の Windows の2大 OS がほとんどを占めています。この中でもビジネス用途のワープロ、表計算ソフトは Windows 上で育ってきているので、このシリーズも Windows を中心に説明を進めています。

今回は Windows を利用する上でよく登場する用語を説明します。Windows の場合操作説明に近くなりますがあしからず。

■ Windows 95(ウィンドウズ95) (略: Win 95)

言わずと知れたマイクロソフト社の OS です。95年11月午前0時に売り出すというセンセーショナルなプロモーションを覚えているでしょうか。それまでの OS はパソコンに指示を与える場合、命令を文字列で打ち込む必要がありましたが、Windows95 を期に大半の操作をマウスにより指示できるようになりました。これを GUI(グラフィカル・ユーザ・インタフェース)といいます。次に説明する Windows98 や Windows NT にも引き継がれています。

また、操作性が激変したことがよく取り上げられますが、他にもネットワークへの対応の標準装備や、ハードウェア増設時の簡略化など、パソコンを「オタク」のものから一般ユーザのものへ近づけた功績は大きいといわれます。

■ Windows 98(ウィンドウズ98) (略: Win 98)

Win 95 の操作性をそのままに継承して安定度を増したマイクロソフト社の OS です。最近パソコンを購入された方は Win98 が既に本体に組み込まれている仕様のことが多いと思いますが、操作性、各種用語とも Win 95 とほとんど同じなので今回は Win95 をベースに説明をしていきます。

■ アプリケーションの起動(プログラムの実行)

Windows の最初の画面(プログラムを何も実行してい

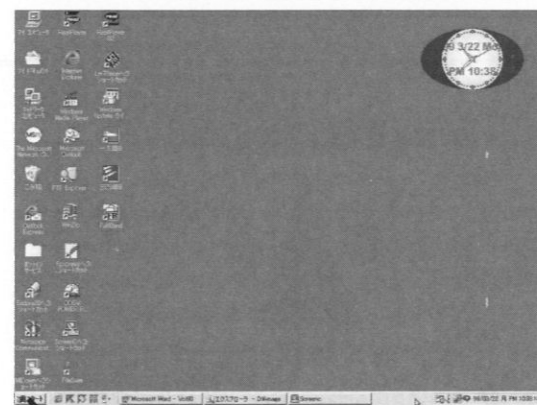


図1

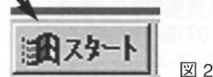


図2

ない状態)を[デスクトップ]といいます(図1)、ここに[アイコン](データやソフトの種類などを表すための図柄)になって現れているプログラムの場合は、マウスを[ダブルクリック](左ボタンを2度短い間隔で押す)することで起動します。

しかし、デスクトップにアイコン化されていない場合は[スタートボタン](図2)からの起動が次に簡単な方法です。

■ タイトルバー

各ウィンドウの最上部にあるバーを[タイトルバー](図3)といいます。ここには、アプリケーションの名前やファイルの名前が表示されます。また、右側には「最小化」「最大化」「閉じる」ボタンが表示されます。これらはウィンドウのサイズを素早く調整するためのコントロールボタンです。

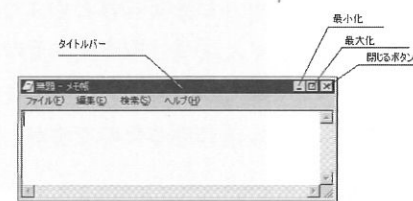


図3

■ ダイアログボックス

[ダイアログボックス](図4)は、アプリケーションが次の仕事へ進むとき、ユーザに設定の確認を求めるときに表示されるウィンドウです。

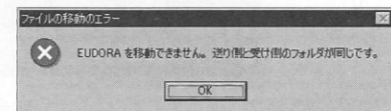


図4

■ フォルダ

ファイルを収容する場所で、名前を付けて分類するための入れ物です。フォルダの中にフォルダを入れるという階層構造にできるので、ファイルを効率的に管理できます。(図5)



図5

■ プロパティ

デスクトップでの簡易操作(デスクトップで右クリック)やアプリケーションやファイルの細かな属性の確認に使用するパワフルな機能です。(図6)

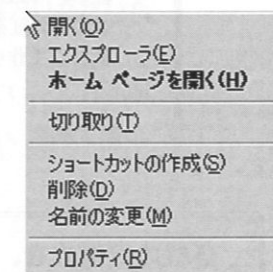


図6

如何でしたか。OS はどんなソフトを使う場合も避けて通れない部分です。「パソコンは苦手」といわれる方の多くが Windows の使い方で戸惑っているのをよく見かけます。覚えようとせず慣れるのが一番。パソコンを電子文具として使いこなすためにあなたも Windows の基本操作をマスターしてください。

今回は遂にホームページの掲載方法を取り上げる予定です。

なお、これが分からないという用語があれば電子メールでご連絡下さい。ご返答させていただくとともに当コーナーで取り上げたいと思います。

メディア委員会 堀田雅一
E-Mail:horita@fukui.hkr.ntt.co.jp

芝居を通じて

五十嵐 嘉紀

皆さんはその場から抜け出したいくなるようなことはありませんか？というより何か他のことがうらやましく思ったりはしませんか？私事ですが、年に一度だけ芝居に参加しています。特に感じるということではありませんが、①他の人物になりきれんというような満足感に満たされます。その場にあつては②妙な緊張感も味わえます。③人に伝えるにはどのように表現したらよいか？また、④受け取る側はその演出によって何を望んでいるか？など深く考えさせられます。参加している間に感じたのですが、これは我々社会人にも当ては

まるのではないのでしょうか。

- ①いかに仕事に没頭(集中)できるか？
- ②張りつめた雰囲気の中で仕事に臨めるか？
- ③どのようなプレゼンテーションに務めるか？
- ④お客様は何を望んでいるか？

以上、僕の体験で感じたことですが、似たようなことは皆さんもきっとあるはずですよ。

P.S. あるではありませんか。青年部の舞台(芝居)といえば、“越前時代行列”……期待しております。

リレーコラム

YEG 伝言板

■ ハンズ・ママ

福井市種池2-50-3
TEL 0776-35-6333

日曜日のランチに出かける場所があります。きちんと手入れされた、かわいコンテナガーデンが、ウッディな外観によく映える喫茶店です。アンティーク調なタイルがはめ込まれた、素敵なテーブルと椅子があり、のんびり出来る雰囲気が気に入っています。私のいつものオーダーは“ハンズママサンド”。軽くローストしたイギリスパンが、香ばしいサンドイッチです。アールグレイの紅茶と一緒に食べるのが、私の目下のお気に入り。素朴な手作りケーキもお勧めです。

< 吉野 弘美 >

私の知ってるおいしいお店

■ かわむら

福井市中央1-9-1
TEL 0776-23-7895

ドアを開けると飾らないご亭主とおかみさんが迎える。一見どこにでもありそうな福井の居酒屋さんだが、ゆっくり味わってみるとやはりちょっと違う。食材にこだわり、食材を活かす味と心意気では天下一品。その違いは、毎日のお昼の定食を続けてみればわかるはず。駅に近いので、県外からのお客様を喜ばせるにはもってこい。(先日、志茂田影樹さんが例の総天然色のいてたちで、お酒を飲んで舌鼓うってました。)

< 蓮花 慶子 >

商青連広報誌コンクール インパクト賞受賞!

今般、わが福井商工会議所青年部の会報「福居」が、全国広報誌コンクールにおいて、優秀賞(インパクト賞)を獲得しました。

その表彰式が2月10日愛媛県今治市で行われた第30回通常会員総会にて、華々しく300名以上の参加者の拍手を受けて行われました。

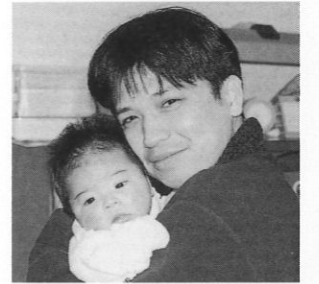


赤ちゃんおめでとう!!

● 宮本 武さん

長女 ^{みく} 弥空 ちゃん
平成11年1月25日生

◆初めての子供で喜んでます。親バカパワー爆発中!



受賞部門はインパクト賞ということで、写真、記事の注目度の高さ及び外部へのアピール性が評価されました。

作品を掲示するパネルには、ひっきりなしにわが「福居」を読む人が続き、その光景を見て受賞の重みを実感しました。



この賞をきっかけにますます福井YEGの活動が全国から注目されるようになって感じざるを得ませんでした。

編集後記

今期メディア委員会としては最後の「福居」となりました。これまでの様々な取材や編集作業を通じて、雑誌作りのおもしろさ、大変さを体験することができ、有意義な一年間だったと思います。特に商青連広報誌コンクールで優秀賞を受賞できたことは、とても記憶に残る出来事でした。取材や原稿でご協力いただいた皆さんに心より感謝いたします。

今後もこの「福居」がますます多くの人に愛される雑誌になっていくことを期待しています。

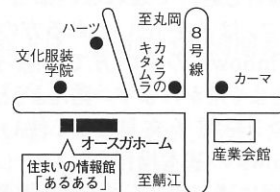
メディア委員会 副委員長 福岡 靖

当社の自信作を、
ご紹介します。

- 総合建築業
- 一級建築士事務所
- 不動産業
- 木材業

オースガホーム
大須賀技建株式会社

本社 〒918-8013 福井市花堂東2丁目605番地
TEL.0776(34)8855(代)



遠かなる感謝の道。



100年を越えて、未来のかけ橋に。

木原建設株式会社
KIHARA CORPORATION SINCE 1899

本社/915-8585 福井県武生市大虫町7号2番地
TEL 0778・24・2200(大代) FAX 0778・24・3677(代)
tkkihara@lilac.ocn.ne.jp

昭和シェル石油株式会社特約店

(株)田中石油店

福井給油所 福井市毛矢2丁目9-1
TEL 35-1721 番(代)
日光町給油所 福井市日光2丁目4-23
TEL 23-5741 番
福井バイパス給油所 福井市北四ツ居3丁目1-5
TEL 54-6642 番
光陽給油所 福井市光陽2丁目101
TEL 22-8916 番

デジタルデータの製作・加工
おまかせ下さい

グラフィックと情報化
福井タイプ印刷株式会社
〒910-0015 福井市二の宮1丁目6-19
TEL.0776-23-5196 FAX.0776-23-5149
E-mail:y-emori@mitene.or.jp



偏らない報道の仕事が楽しい

FBC福井放送キャスター 井上 ますみ さん

今回は、FBC 福井放送、夕方の報道番組の看板キャスター、井上ますみさんにインタビューしました。

■まず最初にキャスターになられた動機は

短大を卒業したあと証券会社の証券レディを1年間しました。バブルのときで、仕事がとてもハードでちょうど転職を考えていたときに、福井放送の募集があり応募しました。まったくの素人でしたが、オーディションを受け3ヶ月間だけ訓練を受けて、そのあとすぐラジオでデビューしました。それが平成元年でした。

そのあとテレビなどの仕事をを経て、5年ぐらい前から報道の仕事になりました。

最初放送局を受けるときは両親は反対でした。でも、どうしても未知の世界をのぞいてみたくて、反対を押し切って決断しました。

■そのころの思い出を聞かせてください。

最初の頃の失敗談ですが、福井駅前からの生リポートだったと思いますが、終わりの言葉で「今日はいっぱい引っ掛けて帰しましょう」と言ってしまったんです。社に帰ってからとても叱られました。お酒はたしなむもので引っ掛けるものじゃないと、女性らしい言葉遣いを心がけるよう注意されましたが、若くて未熟な私には、その意味を理解できませんでした。今ではよくわかるんですけどね…。

仕事としては、タレントとのお話とかパーティの仕事もおもしろいと思っていたのですが、偏らない報道目線というのが楽しくて、今の仕事にとっても満足しています。

これからは報道の中でも、医学や経済などをもっと深く時間をかけてじっくり取材していきたい、そういう特集ができればとても理想ですね。

■キャスターとして男性と女性の違いは

女性としての目線を基本にしています。今までのキャスターは男性に少し花を添える程度の役割が多かった気がしますが、対等の立場をとっていきたいと思っています。基本的には、男性のキャスターがまとめ役ですが、ニュースの内容によっては、女性の立場から意見を言うことも多くなってきています。

■福井についてなにか

いつも思うんですが、皆さん引っ込み思案ですね。今日も街頭でリポートしていたんですが、マイクを向けると逃げちゃうんですね。滑らかにお話ししてくださると思うと県外の方なんですよ。イベント、式典などでも「今日は楽しくやりましょう」と言っても、皆さんちょっと引いた、客観的な立場でいらっしゃるんですね。

皆さん福井を良くしたい、活性化させたい、県外の方にアピールしたいとおっしゃるんですが、もう少し元気があってもイかなと思います。恥ずかしがりやの方が多いような気がします。悪口ではないんですが「物をあげましょう」というイベントには積極的ですね。(笑)

良い点は、嶺北地方の人はすごく親しみやすい、気軽に声をかけていただいて、あまり深く立ち入らずに、浅いところで人懐っこい方が多いと思います。「いつも見てるよ」と声をかけていただく方が多いので、すごく暖かさを感じます。

それと新しいもの、流行ものに敏感で、ファッション、髪型など都会的な感じですね。

■目標、理想とする方は

日本テレビ系列で、今はお辞めになれましたが『今日の出来事』のキャスターをされていた、桜井さん。あの人のように一人で30分の番組を任されるくらいになりたいです。なかなか難しいですけど。

今、報道部員は30人近くいるんですが、女性は記者入れて3人なんです。男の人の目に付かない観点を要求されるし、女性の目で見たい。目標は高いところに持ちたいですね。

FBCも2年前からワイド化になり、視聴者ターゲットを広げ、若い人向けの企画を入れたり、キャスターも親しみやすさをモットーに、間違ったら『失礼いたしました』と言う、身近な存在として見ていただきたいです。ニュース映像も、視聴者の方と同じように放送ではじめて見て、その時の印象を話すようにしています。

私の一日は、11時出社、お昼のニュースを読んで、そのあと取材、3時ごろ戻り夕方の番組に備えます。夜はスタッフと一緒に食事に出ることもあります。今後も、仕事やプライベートでたくさんの人達に出会っていくことを楽しみにしています。

* * * * *

知的で、親しみやすいやさしさのなかにも、女性としての芯の強さを感じました。仕事の後のお疲れのところ本当にありがとうございました。これからますますのご活躍をお祈りいたします。

